福祉だより
ぬくもり

第42号
平成20年12月3日

西宮市社会福祉協議会
山口支部北六甲台分区
分区長　蘆田 敏郎

文化祭を終えて
地域力を高めるために

社協　北六甲台分区長　**蘆田敏郎**

今年も社協北六甲台分区は、北六甲台自治会主催の文化祭に、地域八団体の一つとして、活動紹介の展示と「ふれあい喫茶」で参加させて頂きました。

さて、分区は常に福祉の分野で地域の皆さんにどのようなことが、どのように貢献できるかに腐心していますが、一団体の力では限界があり、なかなか成果は上りません。

そのため地域各団体の皆さんのご理解とご支援を常に頂いております。

ご承知の通り、今は地域の時代です。小学校校区は地域活動の単位としてはちょうど良い活動の単位だといわれています。

各団体は概ね小学校区地域の皆さんを対象に活動し、それぞれに個々には立派に充実した活動をしています。が、残念ながら各団体が結束して共通の目的に向って活動するところまでには至っていません。

各団体が協力して参加するこの文化祭を少し広げて、小学校校区にして頂ければ広く団体の意志の疎通も図れ、私達の活動の輪も広がり、交流と連携も一層強固になると思います。

またこのことは日常はもちろん、先の震災の教訓からも、遠からず来るといわれる大震災の対処に培われた地域力は役立つと思います。

主催者の願いは別として、私自身の活動や行事参加を通して、地域への思いから、文化祭に寄せて願いを述べさせて頂きました。

終わりになりましたが、自治会役員の皆さんに、文化祭の成功と展示発表等の準備運営への感謝とお礼を申し上げます。

地域の人から学ぶ
福祉学習「車椅子体験」

西宮市立北六甲台小学　教頭　中村整七

北六甲台小学校の四年生は、二学期の「北六総合」で「めざせ！バリアフリー・・・自分たちにできることを考えよう・・・」を学習しています。点字器を実際に使って点字を打ったり、アイマスクをつけて歩いたりして、視力にハンディを持つ人の生活や気持ちを理解する学習をしました。

十一月五日（水）には、西宮市の社会福祉協議会の方々に協力をいただき、一三台の車椅子をお借りして、「車椅子体験」の学習を実施しました。社会福祉協議会北六甲台分区の蘆田敏郎分区長をはじめ、総勢一一名の地域の方々にボランティアのゲストティーチャーとして来ていただきました。子どもたち四人のグループに一人ずつ先生として入っていただき、車椅子の乗り方と押し方について丁寧に教えていただきました。

校舎の周りを巡るコースの中には小さな段差やマットなどがあり、ほんの少しの段差などが車椅子に乗っている人にとっては大変なことだということを、体を通して学ぶことができました。

また、さらに地域の方から教えていただき、納得しながら学ぶ経験は、子どもたちにとって年齢というバリアをフリーにすることもできたといえます。

昨年度から、北六甲台のボランティアセンターを通じて、福祉学習で地域の方々に大変お世話になっております。今年も同じ地域に住む方々との言葉を交わしあいながら心がつながる学習活動が、子どもた

自治会・社会福祉協議会共

天橋立バスツアーに参加し

中村力男

十月十八日（土）に標記の旅行が開催されました。この催しに五十九名の方が参加されました。絶好の行楽日和の中を、バス二台に分乗して定刻より十分ほど遅れて出発しました。

予定では昼食前に天橋立を見学することになっていたため、傘松公園では少し慌ただしい見物となりました。しかし、股覗きには十分な時間があり、海の中道を堪能することができました。

昼食後、橋立に移動して、ショッピングを楽しみました。

最後に有名な丹後ちりめんの里の織元「田勇」で製造工程などを見せて頂きました。七十年振りくらいになりますが、蚕の繭に触れることができ感激しました。

予定時刻より少し早目の十八時過ぎに全員無事にコミセン前に帰着しました。

お世話をして頂いた役員の方々に厚くお礼を申し上げます。

赤い羽根募金のご報告

ご協力ありがとうございました

８４，１０１円

の募金を頂きました

福祉講座 「体力測定」を終えて

竹内　安子

１０月１５日に、昨年に引続き今年も福祉講座として「体力測定」が北六甲台小学校体育館で開催されました。４３名もの参加者がありました。測定種目は、握力、長座体前屈、上体起こし、開眼片足立ち、１０ｍ障害物歩行、６分間歩行の６種目でした。広い体育館全体を使って伸び伸びと楽しく測定

西宮市社会福祉協議会から専門の宮城体育係長と米北体育指導員のお二人に来ていただきました。

最初に体力測定内容と記入方法そして安全面での注意事項の説明があり、次に準備体操をして、体力測定の実施となりました。

測定の一種である「開眼片足立ち」の測定は、眼を開き片足で立ち平衡性（バランス能力）を測定します。片足で立つことは、日常生活の中で必要がないので、最初はふらふらして全身のバランスをとりにくいのですが、徐々に安定して持続時間が長くなる人が殆どでした。

また「６分間歩行測定」では、何人かで円周を６分間歩いて何ｍ歩くかを測定します。普段見られないほど背筋を伸ばして真剣な顔で歩行する姿は、２０歳代の若者と同じくらい元気な姿に見えました。最後に宮城係長から健康についてのお話があり、非常に面白く理解しやすい内容で、参加者は大きい笑い声と明るい笑顔で聞いておりました。

今回初めて参加された方の一人は、「自分の普段の運動不足に気付かせてもらい、今後は体力づくりに努力することの必要性を痛感しました」と言われていました。

参加者にとって心身両面の楽しい健康講座であり、有意義な福祉講座となり

編集後記

本号巻頭で分区長が、地域力を高めるために地域各団体が共通の目的に向って活動できる環境づくりの必要性を述べられている。

先日参加したスポーツ２１の百丈岩ハイキングで、役員から各団体間の行事日程の調整の難しさを聞かされた。青愛協の部会でも同様のことが話題になっていた。

各団体の広報活動もそれぞれ独自の機関紙が発行され、配布されている。配布対象の違いはあるにしてもせめて年一回くらいは、地域住民全体への全団体の活動紹介ができないものか。あるいは他の地域でも見られる自治会のホームページでの地域活動全体の広報活動は無理だろうか。

いずれにしろ各団体それぞれの充実した活動が、総合力としての強みに繋がる環境が求められている。

（日高）